

This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

① NATIONAL I.C.A. HISTORY CONTEST

ORDER NO.

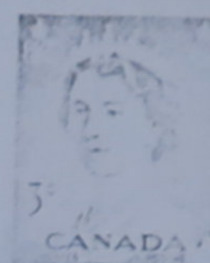
7-2

JAPANESE-CANADIAN
COLLECTION

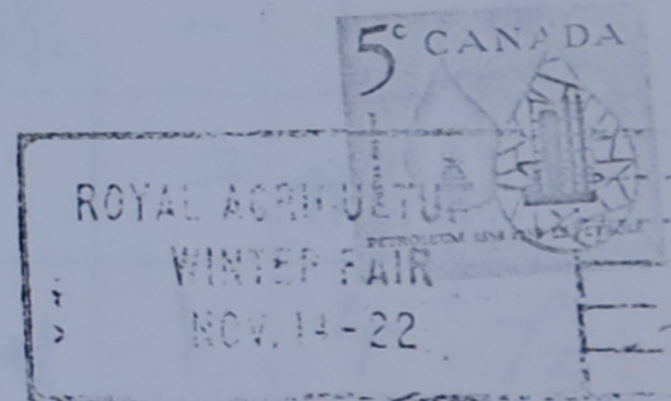
XXVI. A. 2

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

from Mrs Seki Gondo
779 Cadder ave,
Kelowna, B.C.



National J.C.C.A.'s
Japanese Canadian History Con
415 Spadina ave,
Toronto, ont,



NATIONAL J.C.C.A.
HISTORY CONTEST

415 SPADINA AVE

TORONTO 2-B. ONT.

(2)

法	共	無	る	な	老	い	百	左	し	記	一	あ	て	る	+
も	に	理	事	れ	境	ろ	ま	政	て	の	九	っ	お	店	リ
取	居	も	さ	は	に	の	み	策	み	大	四	た	た	を	ー
っ	う	し	跡	な	入	う	る	の	た	あ	一	。	子	経	ー
た	れ	て	ほ	れ	っ	法	次	波	日	う	年		供	営	タ
。	る	と	っ	に	た	こ	外	に	系	し	末		の	し	バ
	自	に	せ	移	彼	散	の	戴	人	に	荒		な	て	コ
	由	か	ず	働	等	リ	地	せ	は	こ	水		い	生	葉
	移	く	あ	さ	夫	飛	域	う	改	こ	た		夫	計	子
	働	一	う	せ	婦	人	に	れ	附	に	し		婦	を	等
	の	家	中	う	は	人	い	こ	の	集	た		者	立	を
	う	か	る	れ	は	た	こ		散	結	世		か	て	貴

(3)

る	間	夕	居	先	在	車	地	香	に	と	素	時	十	一	一
湖	あ	こ	周	着	せ	の	点	坡	乗	簡	は	と	年	三	九
の	い	の	園	の	り	山	で	坡	る	單	地	同	前	水	四
一	た	足	八	友	ス	道	下	市	に	上	月	カ	は	二	
部	に	の	百	の	夕	も	車	り	あ	の	同	十	彼	年	
分	入	や	哩	家	村	走	そ	住	き	星	日	夕	等	五	
の	り	う	と	に	に	り	れ	十	み	座	で	に	夫	月	
は	込	に	云	二	着	園	お	時	る	で	あ	上	婦	二	
と	人	山	ふ	週	い	先	り	間	れ	あ	う	陸	が	十	
り	で	脈	丁	間	左	明	自	程	た	後	ろ	た	約	日	
に	お	の	度	同	。	媚	偏	の	晩	車	う	左	二	日	

141

せ	に	照	あ	せ	の	あ	た	と	湖	あ	葉	種	と	草	一
う	な	ら	な	う	時	月		照	水	リ	吹	子	ひ	の	間
と	っ	し	を	と	か	様		う	に	か	き	入	ろ	根	の
あ	て	て	は	話	う	あ		す	影	を	来	れ	っ	も	小
供	み	す	世	し	が	な		月	も	き	る	て	て	起	屋
の	ら	う	界	か	一	た		を	寫	か	わ	三	烟	起	を
や	っ	て	中	け	と	は		眠	し	な	が	日	も	し	作
う	し	を	の	た	席	私		あ	っ		う	も	作	大	っ
に	や	席	下		存	の		て	っ		の	待	っ	少	た
訴	る	う	界		い	あ		泣	山		二	た	た	の	
た	で	く	を		で	供		い	脈		葉	ず		石	

い

(5)

胞	催	甚	部	世	陸	細	海	と	手	に	左	あ	月	山	夕
慰	い	の	屋	に	海	さ	の	も	作	居	と	月	の	脈	な
安	さ	頃	に	う	空		や	し	り	し	あ	様	美	の	き
大	れ	大	し	こ	化		う	て	の		告	私	事	上	の
倉	た	坂	て	70	島		な	サ	小		中	は	さ	に	湖
を	天	中	し	小	の		波	70	屋		申	こ		ゆ	水
う	十	三		く	極		音	こ	に		し	こ		う	ま
40	万	島		う	み		を	サ	う		め	に		り	め
オ	海	公		き	つ		聞	70	ン		避	来		と	く
70	外	園		我	く		く	こ	70		難	ま		浮	る
聞	同	70			す		心	と	も		地	し		ぶ	

紅	年	た	切	で	は	千	積	其	ふ	と	セ	や	外	う	い
白	の	雪	リ	あ	湖	千	る	の	る	し	リ	ま	國	か	た
の	元	に	た	つ	ハ	山		冬	さ	も	ス	と	に	ら	
團	旦	圍	め	た。	洗	山		は	と	ゆ	夕	な	守	と	
子	を	ま	左		濯	ハ		大	の	め	の	ひ	り	ち	
そ	迎	れ	薪		に	薪		雪	友	に	月	し	通	安	
う	ハ	て	と		と	切		で		な	さ	乙	さ	く	
に	た	一	降		原	り		降		と	眺	し。	む	居	
で		加	り		始	に		る		知	む			り	
あ		四	積		生	ハ		ふ		れ	る			あ	
え		三	つ		活	ハ		る			我			せ	

6

(7)

倍	も	く	等	出	櫻	束	水	ひ	い	と	へ	ね	な	て	か
と	又	な	と	様	咲	む	ひ	き	つ	所	の	っ	か	あ	+
し	い	り	安	ま	き	年	る	こ	き	っ	形	て	っ	て	夕
て	さ	折	閑	を	晴	は	音	そ	鳴	て	も	+	た	月	に
セ	ぎ	角	と	し	水	春	き	わ	る	作	マ	か	に	来	
り	お	苦	し		い	の	し	か	平	り	の	メ	餅	て	
ス	く	心	て		く	あ		同	和	供	ま	り	の	あ	
夕	捨	の	居		空	け		胞	の	へ	ま	ヶ	な	一	
か	て	此	ら		に	は		の	鐘	て	て	ン	い	度	
う	る	小	れ		日	の		待	の	平	御	粉	事	と	
	見	屋	な		う			す	ひ	和	供	を	は	し	

181

て、	國	其	た。	如	界	文	た。	人	は、	そ	句	年	り	7-	四
歸	進	の		く、	中	明		の	洋	こ	の	の	に	雪	時
り	講 ^セ	員、		目	の	の		生	裁	に	好	五	移	の	間
た	と	日		に	出	利		活	の	幣	き	月	っ	名	も
い	云	系		見	来	器		の	替 ^ケ	カ	日	五	左	所	要
人、	ふ	人		る	事	は、		た	古	も	7-	の	の	の	す
止	事	に		如	を、	只		め	を	つ	あ	西	は、	し	る
ま	加	對		く	手	な		に、	し、	く	っ	端	一	ハ	後
る	行	し		知	に	う		偏	夫	し	た	午	九	ス	車
人	わ	て		う	取	め		う	は、	7		の	四	ト	の
を	れ	歸		セ	る	世		い	二	妻		節	三	ッ	強

191

な	は	洋	品	道	波	配	字	ミ	ッ	亭	配	く	云	一	調
か	先	裁	々	な	さ	社	リ	。正	た	頂	所	い	ふ	も	べ
ッ	知	の	も	さ	わ	を	。油	。	。	點	の	み	。	ニ	た
た。	居	自	受	に	が	た	い	。	。	に	月	し	。	も	。
	も	信	く	と	空	。	。	。	。	し	を	み	妻	な	。
	定	の		う	は	。	。	。	。	た	眺	た	。	く	。
	め	つ		と	ふ		。	。		出	あ	。	夫	歸	。
	お	い		き	る		。	。		來	る		は	り	。
	ば	た		慰	え		。	。		事	同		思	た	。
	な	彼		母	て		。	。		か	胞		慮	い	。
	ら	等		の			。	。		あ	を		深	と	。
							。	。							。

(10)

枝	う	て	マ	う	て	乾	暑	移	て	二	十	の	わ	十	苦
も	か	し	ア	の	み	き	い	つ	賣	ヶ	て	果	れ	ダ	心
折	し	ま	惜	木	る	上	あ	て	物	月	あ	樹	る	て	し
う	と	つ	し	ま	肉	っ	つ	束	に	程	つ	野	才	も	て
て	妻	て	い	見	に	左	い	左	有	空	左	菜	カ	最	採
見	は	わ	事	つ	枯	庭	日	彼	つ	家		の	十	土	し
た	ホ	う	バ	け	れ	を	光	等	て	に		名	か	の	得
。	キ	ダ	う		果	見	の	は	み	有		産	ン	気	左
	ホ	メ	か		て	ま	直	六	た	っ		地	バ	候	所
	キ	ア	枯		た	わ	射	月	家	て		ヶ	し	と	は
	と	セ	れ		バ	っ	に	の	に	み		口	一	云	カ

(111)

り	祖	ア	枝	き	ッ	甚	た。	も	妻	と	夫	焦	っ	め	そ
で	國	ア	は	も	葉	の		惚	は	云	は	土	た	な	い
も	の	ま	枯	う	か	後		ん	焦	う	も	の	根	い	は
あ	蘇	か	水	な	出	敷		で	土	た。	う	や	元	ヲ	も
り	生	う	て	声	る	日		立	の		望	う	め	か	う
我	の	た	も	も	や	し		ち	中		み	に	土	う	ど
家	ヒ	あ	根	土	う	て		す	の		は	乾	は	の	こ
の	ヨ		は	や	ま	妻		く	枯		な	い	丁	や	に
南	ら	る	残	た	と	は		人	木		い	て	度	う	も
建	4	水	る	。	と	ア		で	祖		水	み	焼	で	生
の	ヨ	は	。		人	う		み	國		い	た	跡	あ	気

(12)

1.	う	昨	う	そ	た	バ	1	た	束	う	を	見	た	く	て
三	は、	年	と	水	。	う	不	た	し	つ	る、	。	に、	2	
四	霜	一	涙	も		色	色、	ま	。	い、	け	み	彼	う	
咲	で	九	も	見		の	そ	さ		つ	た	る	女	4	
い	終	四	流	て		花	れ	の		ほ	枝	内	は	2	
た	り	七	し	彼		か	は、	内		み	の	に、	大	う	
。	に	年、	た	女		開	ほ	に、		ま	先	三、	き	で	
	な	蘇	。	は		い	へ	美		で	に	四	く	も	
	る	生		ハ		と	と	し		育	は、	枚	安	あ	
	ま	の		う		呉	う	い		つ	可	の	堵	る	
	で	バ		ハ		れ	の	口		て	愛	葉	し	如	

(13)

12	上	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

12

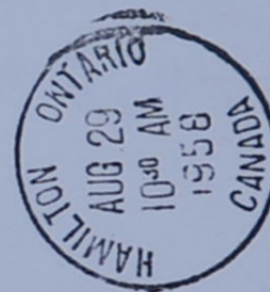
KITAGAWA

moritsugu

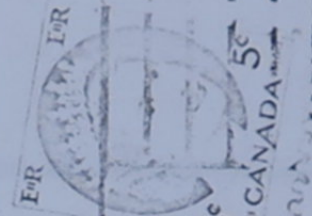
a very minor entry---just an episode that means little except to this man.

no historical significance. I don't think rates a prize, or if so, a very small one

吳貴文在印



KEEP
YOUR CITY 5¢
LITTER FREE



J. C. C. A. TORONTO CHAPTER,

415 SPADINA AVE.

TORONTO,

ONT.

北河沿

4 GROVE ST.
HAMILTON, ONT.

見金 界大終結直後ビクトリアに上陸した
我々には色々あるが、ある
長崎の宿と同じく、マニラに同船した人々の
中にもKさんMさんと、中年の西渡航の人が
居て、我々新渡航者は色々と話に力を入れた
客船では物騒が船まで来てイカサマ物と
責めつけられた
四市港に寄港した折の事で、ある例のように
物騒が乗船して、日中品や土産物を責めに来
て我々田舎者はよく歸るに
イながら、帆實際に真面目の日本船ウサスキとの
おれが、だつたか、我々が考へて、安いと思ふ
ておれので、大が、人あつた
KさんMさんにも、買ふ人あつた
二人とも、買ふ人あつた
よかつた、買ふ人あつた
り、は、買ふ人あつた
だが、焼酎をうすめて、下船した後で、利つた事
が、人達はずいぶん、憤慨して、おれ
大に、ケに、あつた、一日、おれ、早く、ビクトリアに
入港する事に、あつた、暗い中、おれ、早起きして、荷物の
整理をして、おれ、と、遠く、灯が、見える、事、で
甲板におて、見ると、遠く、豆の、よう、な、灯、が、明滅
して、おれ、と、横濱、と、おれ、と、帆、し、て、入、つ、て、お、れ、だ、に、見、る、異、境

2

3.
ビクトリアで市別する所Mさん達かうアドレ
ミタがう筋失してしまふあれから四十平
送る信りする事お達する所りもなく今
及んでおる
其の先時はおビクトリアかう硬着坡島を南北に
往復する汽車は隔日の上陸した日は南トする
日だつたので一日ビクトリアで買物などして
翌日の汽車で父のいるコーナ市に行き事に
なつた兄は組人にならずにありに三日滞在する
つて兄と一緒に来ておた人につれて汽車
の客となつた先ず確つた事は駅の少く一車だ
日中や山駅の便所位り建物で乗降客もほとん
どなく郵便物を取扱ふ位線路は大てい山の中
を通つておる山の中
おる別木に揺れたワラビ見る物皆驚くばかり
最終駅のついでにソネに着くと日動車が来た
あるがりで近づく来ておるはずの父も見えな
日中一人か一人客待ちしてゐたか其の客が来
たといふとコボしてゐた人の日動車で市办
の米田洋服店に寄つて居ると中年の日本人か
馬車であつた少しい時別れた父の面影に記憶が
たいてい其の一人か父と知らなかつた
父と馬車に同乗して父の農園まで五里ばかり
の田舎道やみり中にくさりと浮出で見る
建物とてカ印象物だつた
と異日に見る会

欠の因はハイウェイカーニバルの
 一軒えで途中の山の中にある
 ところが人々の目からいって見た
 同様に佐藤氏かおるの店で一丁
 とふの店で買った赤々と燃える
 たり熱いお茶をよりばれ馬車の中
 冷えて居た時で何人ともうかた
 豊島では晩市から鹿打りに来て
 フトと赤々と燃えて薪を待つて
 れた又のちいめで薪木小屋をの
 又一強いた今朝打った鹿だと二
 ありはそい夕食をすまし赤々と
 プとあたりなが次で赤々と話
 月とばかり旅路だつた長崎を
 無事と井田氏の所を善した
 遠く昔の思い出
 あり

ハミルトン市

北川恒等

今日、約四十五番一、九百十九年、秋、
日、英、諸、國、の、一、つ、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
し、た、日、の、一、つ、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
晩、香、坡、の、一、つ、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
金、堂、の、一、つ、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
便、な、片、田、舎、に、所、多、元、な、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
る、の、と、在、留、民、一、同、地、帯、に、疾、速、に、た、り、た、り、
高、貴、の、一、つ、激、か、今、も、亦、高、ル、得、な、い、
ど、人、な、服、装、か、よ、か、う、う、か、ど、う、せ、れ、服、な、ど、持、
つ、て、る、者、も、た、り、置、り、ス、ー、ツ、白、シ、ヤ、ツ、黒、り、タ、イ、
と、云、小、服、装、で、奉、迎、し、た、ス、ー、ツ、白、シ、ヤ、ツ、黒、り、タ、イ、
殿、下、は、薄、ブ、ラ、ウ、ン、の、ス、ー、ツ、に、同、系、統、の、ハ、ッ、ト、
の、極、く、平、民、的、な、服、装、だ、つ、た、同、系、統、の、ハ、ッ、ト、
下、度、戎、々、の、近、い、と、一、白、婦、人、か、カ、ノ、ラ、と、持、つ、て、
待、期、し、て、お、る、の、と、一、白、婦、人、か、カ、ノ、ラ、と、持、つ、て、
と、殿、下、白、う、指、圖、の、と、一、白、婦、人、か、カ、ノ、ラ、と、持、つ、て、
と、平、民、的、な、方、だ、と、一、白、婦、人、か、カ、ノ、ラ、と、持、つ、て、
事、が、橋、の、中、程、で、止、ま、る、の、で、何、事、が、う、う、と、思、
う、で、見、る、と、殿、下、は、事、が、う、う、と、思、
事、が、ハ、ン、バ、イ、キ、カ、川、底、と、見、え、ぬ、位、に、真、実、に、
し、た、と、る、の、と、興、味、深、い、見、て、お、う、ル、た、席、供、り、者、
に、か、小、石、と、興、味、深、い、見、て、お、う、ル、た、席、供、り、者、
に、な、げ、て、興、味、深、い、見、て、お、う、ル、た、席、供、り、者、

Mrs. J. King, 9
4 Grove St.,
Hamilton, Ont.

York

(1)

Since past forty years, now. In the autumn 1919, we welcomed the prince of Wales who was the crown prince at that time. He gave a great impression that was I never forget.

The highway town situated 70 miles north from the Vancouver City in the Vancouver Island, the population was not reached a thousand yet at that time, the transportation was inconvenient too. When the prince of Wales visited this small village the people at here all welcomed him, as we Japanese also among them. The Japanese people has not the dress suit for welcome, we wear the ~~blue~~ blue suit and ^{the} white shirt with the black tie. The prince of Wales was

dressed the light brown suit and the same shade of the hat, his appearance was in heresy heresy. The woman with the camera in her hand was standing near me was ready to take the picture when he was approaching.

The prince saw at this woman, he let stoped his car, then he gave her for the better opportunity to shoot the camera for him. I thought that was a very democratic ~~attitude~~ attitude he was indeed!

I saw the prince's car stoped on middle of the bridge, I was wondering what was happened. Then I found that there was a breeding person of the Salaman, they were gathering at the bottom of the river. The prince saw this sight, he took the store

(3)

from the hand of an attendant and throwing it to the fish. The people looked at his action from every where around, some were from the high position. I surprised this sight as we Japanese who brought up in Japan.

When he was leaving from the hall where welcoming him held. A little girl through the handful flowers on him. The prince was smiling, he took his hat off gently and did shaking the flowers off, it was a very graceful.

Under the government support, there was a cultivation work on the ground of the thousand acre that place called "Mabrou" ten miles north from the Kosterway. The prince of Wales came to examine this place

was one of his sons for traveling in the Bancans
Island.

We learned later that the
prince went to this place. So we went there
too. He was on the way to returning to his
car after finished to looked around at there.

About this time my car was on the road, I couldn't
turn the car either side, there were many cars
and the horse and bogs the both side of the
road. I stoped the car and managed to get out
from the car quickly. But Mrs. Oda and Mrs. Yoneda
with their children couldn't do any more for the
no time, they remained in the car, then the prince
of Walo was past very closely beside our car.

I was very worry about this happening. But
there was no accusation came to us. I thought
if this was happened in Japan what will

be happen on us.

Mrs. Y. Yoneda. KITAGAWA

4 Grove St.

Hamilton, Ont.

① NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

EXHIBIT NO.

7-2



National J.C.C.A.
History Contest.
415 Spadina ave.
Toronto 2-B.
Ont

M. Matsugi
Box 1213
Reynolds Alta

(募集券購入)

市役所
日系人歴史編集部
の方へお送り願います。
実住所を宛先として
お送り。

AUG 20 1958

Mr. George Tanaka
Mr. Y. Iwasaki
Co. Continental Times



1486 Kensington Rd. 205 Dundas St., West
Port Credit, Ont. Toronto, Ontario

(F)

加奈陀アルバタ州レモンド 郵函二二三

松 木 正 雄

年 11 H

(1)

太平洋上感懐の一瞬

一九一七年は第一次世界大戦の最中で、日本も独逸と相争
に米英等と共に連合軍の一翼として松鼻の海に躍
陸、海陸に一等企てその武威を遺憾なく逞かした。殊に海
軍は太平洋鎮護に力を注ぎ、かゝるに得意な時、加奈陀
西部の沿岸に、その恩恵を蒙るに到るが如きものがあった。

當時私は、アルバタ州レモンド在籍の、武田大、三郎氏の定着
農夫呼出書として一舟で同航航路を航するに丸（古くは級）で
横濱を出帆、冬と云ふ、と静かな航海を続け、甲板に夜更を
仰ぐは雄姿は、是れ、其の如く、一気魄と理想を抱いて心に馳
つたのであった。百八十五度航路、二、三日の間に、人々まで
快適な航海で航するをえなかつたのに、急に船体前後のた
め鏡も船破者を生じ一時間位の間に殆んど将棋倒しに船家は
まうえしまった。二夜の有事事々、眠ったに、良堂もお座席に食
物はあり、こちらより、並べられ、人々も、ガランとした、辛し
一人一人に良堂について、いゝといふ始末で、也、獄の憂が、あつた程の
甚大、幸、私は船には、海山所、上陸までに一段に、夜更

M. MATSUKI
P.O. Box 213
Raymond, Alta.

加奈陀アルバタ州レモント 郵函二二三

松 木 正 雄

年 月 日

(32)

か鼻息逆風に、浪と、浪との空気に、空気が、知らず、下向してゆく。
空気に降りつめられ、一寸空気が、又、空。

4. はこの大國策の力に打たれ、戦を起せしむ。

船は是に比れば戦に無敵なり、故に敢て之を自衛に用いた。今日の航程百二十里との通報、これより所達まで一時間かと思はれた。斯うして三日は晩、荒れ渡りながら、三日間は浪と波と風と潮まり荒れ、晴天を前にしたのは午前十時頃で、やがて上甲板に上れるように持った。十一時過ぎ昼食、今日は昼食が少く、同乗士と話を合せていると、誰かおとなく、独逸語「水艦」らしいのが本船を追跡しているとの噂。一艦去ると一艦又一艦、船内は急に流言と噂と必怖に各々一人戦うす舟所もけしめた。午後一時を過ぎた船の高度と波の高さは肉眼には水天の間に一物も映らない。二時が来ると船中の龍が必怖におびえ、上甲板に回帰して船を凝視する。救命ボートに注意を払うものの氷の態勢を捉えざるを得ず、自づと船内に緊張感の気がみだり、高級船員が船室巡視に頻りに見える様子が持った。何かあるかの間に本一艦は去つた。これは奇なり、即ち前記の如く

加奈陀アルバタ州レーモンド 郵南二二三
松 木 正 雄

年 月 日

(休)

通い、太平洋にしがり込んだ敵艦水艦工の足跡を、戦
かになんか交さるゝに、時に三時を少し廻こいた。
視、...水天線が島の間に戦艦の視界に、見えつ隠れ、煙
煙程のものが、映ることはない。憶々万事休す、戦艦に誇りつ、在志郷
関を出て渡航を止めたのが運のつき、煙水の地、跡をたどって、太平洋の
藻屑となる。一瞬は志し希なれ、吹きとん、死の回廊に追はれる気
持が愕然と沈黙。煙水の煙を凝視するばかり。追いくる煙
は黒いものが其の下について、艦船であることは、事証の類にも歴然
たる事実となり、嚴然として威圧するかの如く悠々廻る事のはな
いか。ああ悲しきこの光景。高級船員が双眼鏡をしきりに
のぞく、と一瞬間に静寂。一瞬の時、係りの船員の指揮を
受ける事、進示が出た。急ぎと命旦々に迫るか？ 此處の
如き工の、この方々順の餌物を置き、あうにはすまい。魚雷が第
中よりすべり、ここまで追いつめられ、戦艦に突如として、故郷の
山川、肉身。彼が走馬燈のようになす、敵艦の艦程をみせ、
敵軍具をつり、ボートに移る。此の波、海軍は...、運命
なる哉...在志郷から故郷へ、同胞へ。

M. MATSUKI
P.O. Box 213
Raymond, Alta.

加奈陀アルバタ州レーモンド 郵函二二三
松 木 正 雄

(5.)

年 月 日

夕暮が過ぎ、灰色の洋上。あと三、四日すれば、加奈陀大陸に上陸が
できるのだ。……感慨無量の想いで空を眺め、天命を待つこと
暫し、沈うつと窓檣の十数人がもじもじと、やはり足跡の残る
かきつけのてぬ一人船室に残る者なく、周が甲板にうねる海波の
間、向に認められる敵影に限りなく瞳を凝らす。

戦害のめき——丸は依然として一進一退進退を繰り返す下
るに過ぎない。時時刻刻と移る、各の足跡は落ちる風愈々
密に肌を刺す、敵は敵艦に肉迫、何時日露の役や時空海潮にた
ける常陸死傷者のことばかり追憶し、其心境は悲憤であつた。金員
甲板に集つて一語もいへず、魚雷、爆撃、撃沈の寸前に至る光景は
断念悲憤の四字に尽きる。

忠——船内無線局の受信、貴船の消息が航海を祈る
局員よりこの快報、あ、めき——丸は助つたのである。今日半日ほど
と覚しき情物は、其時の言葉が言へば太平洋戦争後の世に就いては
日本軍部の駆逐艦であつた。彼等日露時加洲で船積をうけた戦油
槽船二隻の護衛のため、加洲に趣く進次、戦害の乗船めき——丸の
護衛を兼ねたものとの話であつた。

あとど聞いた話だが、真疑は別として、一にも思ふた、エドワード島も
いよいよ近郊に敵艦も逐つたとの事であつた。

M. MATSUKI
P.O. Box 213
Raymond, Alta.

加奈陀アルバタ州レーモンド 郵函二二三

松 木 正 雄

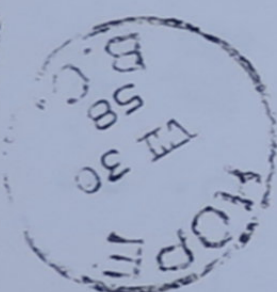
年 月 日

(6.)

斯くも四時頃過ぎ——この船尾をかすめ、右に出で、マンネンセく
くのかれく大波をやりぬけやりぬけ、おイスルセも知らず、加洲を指——ん
きききと叫進する。俄雪の如き船は波に弄られながら、心から答へ
る。全船に「かみいん」力出威一力出威を連呼——船も感激に腹を
あつく——何々園の中に海をゆく。即ち軍艦に感謝をこめ、さようなら
と——何々園をすれば、あれから幾時、四王針、當時雪の降り、やまに上陸
——二王針の若者心あり、既に老境を辿り、手を握り、代は恩子の
時代となつたが、一母——いふまで、一いふ所の恩恩に生かされておる。
第三度大戦心好むは、那格の底に、落る、無情、降伏、然るに文明國
加奈陀に在り——おき、然る中、一週りの拘束を受け、生命財産
は確保され、然るに加奈陀も、船を共に、中——いふ、平等の權利義
務の生活を許さず、平和に農業を営む——いふ、平等の權利義
幸福な一生をあると、汝に感謝——いふ、平等の權利義。

M. MATSUKI
P.O. Box 213
Raymond, Alta.

M. Ishikawa
PO Box 387
Hope B.C.



National J.C.C.A.'S
Japanese Canadian
History Contest
1415 Spadina Ave.
Toronto 2-B Ontario

現住所

Mrs. Mitsuo Ishikawa
1465 Hemlock Ave.
Hope B.C.

今このえの淋と白するの
 父ハ伊からの轉航者である
 ず中途退学してごたふんをすておた夫は
 かえしをとハ次々と重なる破産のうめ
 たが不運ばかり希望を失つて其母を亡くした
 航者になり心臓の痛手を忘れた父への轉
 小なりと山杯業を営みながら其時分では
 とい期は難くや一世畏大戦後の不景氣に
 してきたが切ぬけて家族も子供六人満
 意時代であったやうである思ひ出すと
 イツワがあるが當時のお友達でまだ
 るられる人が多くさんあるので折は昔話
 して思出して下れる人もあるた一と思ふ

もとかはこ
 同と來母の立かる仕し山お出だ程八に
 じつてと小て山事と一私の月ほるえだぼの

はて九
 一替ぬち
 し約るが又
 一し程ひハ
 六て度で月
 平三の寫が
 一十年夫真
 月後に結
 のの呼替
 事ハ寄を
 で月せし幼
 四でらたな
 十あれ私じ
 三つてはみ
 年た渡か
 の委加すは
 昔ししか言
 でくてにふ

今年八月がやって来た幼なじみとは言ふ
 の九つちがひで寫眞結婚をした私はかすかにおぼ
 えつゝある程度の夫に呼寄せられ渡りかして来た
 のは暫くして三年後の八月であった昔で教えた
 ると一六八年八月の事で四十三年の昔である
 すでに其夫とも死別して十五年となり頭髪には
 白いものを頂く年となつた今でも毎年この八月
 と言ふ月が来ると頭の上にある暖かい國に育つた
 淋しさを思ひ出すのである暖かい國に育つた
 は晩香の八月は涼しいのが一番始めの思い出
 うて今でも忘れないが一つとして残つてゐる
 がこの仕事場である水ない一つとして残つてゐる
 中のかいふ仕事場である水ない一つとして残つてゐる
 山の谷間の家は我が家へ落着いた時の短く仕事
 になつた後の静けさは自分への呼吸と遠く聞ゆる山
 一人泣く鳥の音が幾日もかき續いた事を思ふた
 鳥の泣く鳥の音が幾日もかき續いた事を思ふた
 空に青空に青空に青空に青空に青空に青空に青空に
 今も同じ

故郷とは忘れざることの出来ない訪門する人達の
 多いのをみては、この人な私であつたが今は帰郷人となつて再び
 多くの戦争から影でなつたのも年を重ねると共に
 百年のバスデを視てゐるが、其半数に近づく年
 は、すべてを造り出して、今は人間が機械に代り、
 見たいに造り出して、今は人間が機械に代り、
 人馬の力を借りて、コトコトとやがて昔の山林は多
 所で馬の力を借りて、コトコトとやがて昔の山林は多
 な所へ行かなくなれば、見られな近頃は余程の至る
 達、感へ、行かなくなれば、見られな近頃は余程の至る
 子、い、道、の、馬、の、動、作、に、あ、こ、れ、な、い、見、る、の、だ、ろ、も、あ、の、勇
 ふ、こ、う、した、た、世、代、に、住、み、な、か、ら、少、し、の、だ、ろ、も、あ、の、勇
 出、來、な、か、つ、た、私、の、英、語、は、今、以、て、少、し、の、だ、ろ、も、あ、の、勇
 を、り、わ、な、か、た、ら、用、達、が、あ、ま、づ、か、し、い、有、様、で、や、つ
 と、氣、が、つ、い、て、一、言、で、も、あ、ま、づ、か、し、い、有、様、で、や、つ
 鏡、の、お、世、話、に、な、り、な、か、ら、あ、ま、づ、か、し、い、有、様、で、や、つ
 所、が、ない、振、り、返、つ、て、見、れ、ば、こ、れ、は、頭、と、い、う、思、ひ、で、得、る、人
 の、道、を、し、し、て、通、つ、た、に、過、ぎ、な、い、か、が、子、の、一、生、で、人
 カ、ダ、人、と、し、て、一、つ、き、残、る、人、と、な、つ、て、お、ろ、か、ア、メ、リ、カ、皆
 に、根、を、お、ろ、し、た、只、一、つ、き、残、る、人、と、な、つ、て、お、ろ、か、ア、メ、リ、カ、皆
 達、の、し、き、た、は、一、つ、き、残、る、人、と、な、つ、て、お、ろ、か、ア、メ、リ、カ、皆

C. of NJCCA.

From: Mrs. S. Yamaguchi.
295 Poyitz Ave.
W. Waukegan Ont.



National J.C.C.A.
History Contest
415 Spadina Ave.
Toronto 2-B. Ont.

憶は過ぎ去り四十余の昔は社する風音も何と
かき冷めかきと思はせる頃は一八九十八年十月始め
頃云々と云く今度のスパンコーは高熱にすばう
しい、さほ、い、流行する故、氣を向ける様にとの
注意、幼嬰も持つ母親に訴へては一増、恐く何と
知うぬ不安な多持ちを覺え、二三日も過す頃
かうあすこり流れてもと云ふ者より病人の
芥が、多く、ひり、看護に当る人もなく、お金も出さ
ずとも、恐、染、毒、を、恐れ、て、へし、て、来、て、し、る、あ、か、知、人
さ、も、恐、れ、お、り、の、い、て、訴、有、な、い、と、云、ふ、有、様、暗、ん、た
る、も、其、持、ち、は、や、る、せ、た、く、外、境、と、訴、さ、れ、ず、申、請、は
扱、は、全、部、一、并、さ、の、や、む、な、き、に、至、り、市、病、院、と、一、杯、に
て、入、院、し、た、く、も、い、く、な、く、お、い、し、き、を、病、人、の、へ、い、を、並、べ
て、同、合、め、と、云、ふ、有、様、に、て、日、本、人、な、ら、ば、と、て、大、院、と
訴、さ、れ、ず、高、熱、の、た、め、に、い、い、か、う、救、え、し、も、其、も
見、の、か、い、に、い、て、置、り、し、云、ふ、年、不、足、医、師、と、考、へ、護
婦、と、恐、染、毒、に、い、て、い、何、と、か、ね、ば、同、胞、の、運、命、に
重大な危機が迫り、日本人の病人ならば、助からぬと
云ふ、の、た、ん、故、人、と、い、う、れ、い、同、教、會、牧、師、井、川
先生、の、才、妻、が、先、き、に、立、た、れ、て、日、本、人、會、と、相、談、の
結果、スパンコーは、校、と、無、理、に、借、り、受、け、流、行
病、校、全、部、の、教、室、使、可、を、許、さ、れ、ト、ニ、フ、ロー、リ、だ、
け、を、許、さ、れ、日、本、人、の、た、め、に、特、設、二、病、院、を、造、る、事
も、決、定、し、医、師、は、今、故、人、と、あ、る、ト、ク、ター、下、高、原
か、そ、フ、せん、に、ト、ク、ター、高、橋、ト、ク、ター、石、原、ウ、ニ、介、
ただちに特志、看護婦も、つ、り、い、に、今、故、人、下

若し忍痛でもしてはた愛故明日かうば二陸のケン
 へ来るねと信愛と深々想やりにより其の後は内院
 まで食事の介を以て手傳へさせて頂く特志を以て護
 衛の中には途半忍痛でもしてはた愛故明日かうば二陸のケン
 荷の想な思いつけし毎日やるせなく續く一ヶ月近
 友うんとする頃かう遠院する人も多し病人も少く成
 ちや大木と云ふふふふふふふふふふふふふふふふ
 市病院に動いし日土日は最後として當時の治田領
 事を中心に最後迄に護つて下されし三にリターと屋
 部下三十四人は本人特設病院記念する員大も一つ
 一お別れをする……少くは落ち付いたと云ふもの
 のまわりの病院は一杯看護婦も得られぬ先き
 恐ろしいきほいにて逆とわいて来たフリと云ふに
 願つては永久に忘れられしことと云ふ事ない
 悲嘆の想出もある暫くは二年に過ぎいか四月初に
 近所の教友下夫人がやうれつづいてお隣り夫人が
 倒れ恐れれし心配におりのいつて居るものと云ふ四才の長
 女が急病二日後に三才の次女と次かう次と浸され
 まか一人二人の世託かう洗濯と御く忍痛の
 恐ろしいに訴ふ者もたし淋しいと病人の世託するまは
 休むいとまとなし働いて居る女も居る時々の事にて
 いらねと居る水が静かに起き出でアイスリル云々も
 心の底にさしやみさむねにきこえる一夜更子洪に枕
 を取り智つてやる目も想い小時神も忍び何事も
 思ふ煩小な思ふことと母に祈りませよ神様は必ず護り
 下さるにふ導ひ下さることを信に孫女守に二年

4.

安を致す我が平安を汝等に致す我が平安は
 世の事なる如き物に非ず汝等心を堅くすな神
 を信じて我を信ぜよとの聖言を思ひ起しなす
 祈りたすいをも強める事下高原にリターと小見神
 尊向にリターカ、カ、毎の事下下さる 其の歌に
 心はたまされ急のの中に過す一夫人のあ宅下はス
 へう井先生のあ婦をが一子負護婦にあふれるも
 幸甚の元を得られと一早く而いたった一日の金負護
 にて五人の初受を致して夫人は口をほくとに
 の毒にて同情に地へたすい夫人のあかへ来る水
 か、はとも半のナースにて二才になる長男を致して
 夫人も口をほるとい知れぬ悲嘆の大さきに
 戦慄する程に思ひ知らざる今度はやくそへら
 井にゆへる下りて思ひ知らざる今度はやくそへら
 半日の金負護にて長女は脳膜炎を起して急に
 たり夫人の教にたるとい愛をに四才を月迄に
 て上りて長女は行かれは今日か明日かの夕に陰
 状態にたり目新か其傍にあり世を去る人もたふ
 する夫人は悲しんで居る事なく引續き長女の葬
 儀今又自分も倒れてはと祈り求め再び神の聖言に
 慰みさめられ力付けうる神事へ神ありきり
 一王の如きはほむかな月世の出来ことは二月目的
 な運命にようか父なる神様の権理にある若
 み、中にも慰みさめたり神様の権理にある若
 一は如くに血を流して下され、エス杯も心れな
 ち常に教へられ祈りたうさうさう其の場合に

また時こそ急ぎ多く信仰を失ひ不安暗たる
 たる多岐路には如何にすることと出来ず人神を
 失ひ後静かに考へる時取らぬ思ふ未だ自らも
 外道は而論許されず我々の最後の野郎の如
 くさへしかたわかれ涙あられ胸一杯になる思ひも
 静め一人居残る許り下さぬ思ひは涙と
 なる甚のはは三ツ一猪に葬儀が全同教人會から
 いとなまれる次女は幸三といふ井に引越る者護
 一ツ度には失くは多の毒故一人だけ下すまにいたし
 こころの信愛を捧げた真心から看護して
 下されし甲斐ありて月後にはナースもはなれし故今
 度には主人の残されし二才の長男を私か世話す
 る所になる斯くおとしは神ならぬ身の知る由もな
 へんに不思議又夢の如くありて月前迄には人
 事であつたが今は自分の身に振りかかつて見ると
 決して人ごとと思ひてはみないと思つた私達の
 人生航路には多岐の暗礁や、嵐月を多岐路に
 たければ多岐路といふのは、航海に於てエス杯と云ふ
 希望の船を忘れた杯に可哀しい思ひを
 思はされた次女は私達が帝は皆フルーの如き
 こと思はせし居るに、かとうとてなり腹帯を穿て
 日本人第一回卒業生ナースとして去り後B.C大
 學に在りてトレント大醫下學の二人共ナースと
 二枚ある者の内甲をかりて、協力めさせし居る
 是りたういふかうと四十歳の了いと小さい信仰
 下す

6.

持ち増し祈りによって慰められ今日たふことは
 る心付たあゝ一世をさういいたす一我らふも
 想ひ一報一り一日二一一事十事とほ一は祈り事
 にはあられいそまうぬ者は我らふ一の愛憎現た
 我らと死せし子供の手を数一祈り求め
 へるはさういふ

一九九五年十一月九日

山崎より

Name: Miss S. Yamazaki	Age: 68
Address: 295 Boynton Ave	
City or Town: Lakeside, Ill.	Prov. Dist.

① NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

ORDER NO
7-2

(2)

Kobayashi, Denbei

18



NATIONAL JCCAS JAPANESE CANADIAN HISTORY CONTEST.

415 SPADINA AVE,
TORONTO, ONT,

一九〇六年明治二十九年海防飛躍を思ひ立ちアム
 リカ行々旅券を得て目的國藝研究横濱港に泊し
 ビ、アリル船アゼニアに乗り乗船四月二十一日一
 時晩香波に上陸時の同船者同縣人滝沢彦輔山崎系
 之丞西氏と生三石便船の都上三日滞在丹田旅館に
 投宿先づ第一便所に行き用を済まして前に下つて
 居る紐を引るしに大音を驚して水今にも便器が
 流れん斗りなりし私は水で流す便所を未だ嘗て見
 た事が無いので大に驚き大変な事をお来たと思
 い急がしくパンツを引る上げその儘を主人公に告
 げんと戸口に半もかけんとせし時ズオ〜と音を立
 て水は止まつた先づ安心何人と田舎者であらうか
 と自分度から恥じ右滞在して居る内に矢張者同縣
 人井出六次郎濱村孝四郎山内彦次郎諸氏が訪れて
 種々力ナダの事情を話され今年はこのキナ河の大漁
 だから君等一ト儲けして行つたりどうだと頻りに
 進められ然し秘達の間及停泊の山の畔からあて
 来て悔の心事たゞは述べてもお来たりそれに海にで
 もはまづ左の泳ぎはあまらず死ぬより外は及んと主
 へしに友人は玄ふ海にはそつたり泳げろ若くも駄
 目だからはそりない様にせねばならぬたすいらく
 と誘われて遂に吾等共三人共決意して漢に行くと事
 にはした。その當時は旅着さのあれば何月でもア
 リカに行かぬとだその内二ト船を定めて居つ
 た濱村七郎阿部孝之助の両氏も来て弦局七人下同行
 する事に決し一週間後の晩市にお泊しキナ河B.E.ギ
 ナリーに落ちついたのでそこには古来の人造五古石居

2.

つて何れも気の荒らうな方々に見へた二三日休
んでギアナリ用の真木切り仕事に附いた山に行つ
て見れば未だ曾て見た事のない程大なる木で切り
にえし冷し四尺から五尺もあるそれと玉切つてス
ケージの上を轉がして海に押し出し釘を打つて針釘で
繋ぎ満潮の時に取り出しに曳き付けたり又引き潮の時
に刺つて陸に積むので中々ハードの仕事である
近々と削れてからは私達ニエマンドの仕事を
して毎々五仙以上になつたその当時五仙は日
本金倍額になつたから今も毎々五仙は日
つたがその給料は鮎漢が終つてから一ヶ月
所がその給料は鮎漢が終つてから一ヶ月
玄ふ事で食料はボスガ立てて稷へ被服その他はギア
ナリ一のストリが供養して居つた
押して六月二十日から急に細トろしとなつて毎サ
デーの六時からお漢してサタデーの夕刻ギア
に帰るので一週間河又は海で漢を続け居るの
所が大漢と同一で居るのには大漢は行かぬ
求一隻の舟には古者の人と新らしい人と二人組
んで居つて古者の人は細もとつて新らしい人は舟
を漕ぐの下である事もそれの中々圓滿な生活が
たいては何かのばづみに直ぐと論と成つて通りには割
れて又他の人と組み合はせると云ふ次第だるうし
て一週間目にはギアナリに帰れば荒々しい古者の
人達は船から眺め続け果には喧嘩が始まる
私達の船は私が年長位いで若青年学生が夢かつた
学生達はサレデーに読書として居ると大酔者

3.
 があつて来て、おい、学者村長だぞと、嫌な仇名をつけ
 て、頼のきりも指でつらなりして、喧嘩を賣りかけた
 まるう、だ何んと嫌な生活であらう、さうして、若辛を
 して、漢期は、終つた。
 指で勘定と云ふ時になつたら、ボス連が、ボーイ、着集
 の際、キア、ナリ、ガリ、大なる、アドバンスを、借り受け
 て、居たもので、大不漢の、あめ、その、アドバンスを、差し
 引かれたり、吾々、ボーイに、支拂ひ、金がないので、あ
 る、勘定書、大減して、金はお、来り、迄、待ちて、賣入、ないと言
 ふて、一人、宛、現金、五、千、と、帳、市、迄、の、帳、符、を、与へた、太、で
 吾々には、お、晩、しても、泊る、宿、後、さへ、ない、と、云ふ、お、様、で
 ある、幸ひに、先、輩、者、が、心、易く、して、居た、城、山、旅、館、に
 行つて、事情を、話した、所、就、切、ある、並、人、公、が、お、太、よ、い
 と、も、仰、り、近、下、も、代、事、に、就、く、迄、程、の、所、に、泊、つて、居た
 り、よ、いと、云、あ、れた、ので、一、ト、宿、心、その、内、に、同、郷、人、が
 続々と、集つて、来、れ、り、で、一、ト、宿、心、その、内、に、同、郷、人、が
 繁、の、漢、村、お、太、西、氏、と、ボ、ス、と、して、ま、時、の、工、事、所、に、ま
 任、後、左、鐵、氏、に、頼、り、信、洲、ギ、ア、レ、ン、グ、な、る、も、り、と、組、織、を
 して、今、年、九、月、一、日、オ、カ、ナ、ガ、ン、支、線、バ、ー、ノ、市、に、参
 り、一、時、漢、期、五、郎、氏、の、ギ、ア、ン、グ、と、合、同、して、同、支、線
 を、上、下、して、御、へた、ま、く、は、学、生、上、りの、青、年、で、鉄、道、化
 事、は、不、通、な、な、つた、その、内、疎、直、して、純、粋、の、信、以、ギ、ア
 ン、グ、に、な、つた、は、よ、い、が、直、ぐ、迄、期、と、あ、つて、メ、ン、テ、イ
 ン、ナ、ツ、キ、に、ス、テ、ー、レ、ン、グ、の、サ、イ、ワ、キ、に、ギ、ア、ン、グ
 の、カ、ー、は、押、し、込、ま、れ、て、そ、こ、で、一、ト、各、通、し、た、地
 の、寒、い、事、は、お、次、下、四、十、夜、も、降、る、日、は、珍、ら、しく、な、い
 漸、く、三、月、廿、旬、に、な、つて、レ、カ、モ、ス、に、て、二、週、間、餘、り、御

4. いた或る夜、事俄かに腹痛を感じ、下痢、気味になつた。たかり一人、こつそり山牛の林の中へ行つて便をし、て居ると、雪りから人の咳聲が聞へて来た。ア、誰か、も同用で来て居るわいと聲をかけ、初め、五、六、人、同じ、合、で、あつた。然し、大した事はなかつた。多分、牛肉の古いのが障つた。たらししかつた。然し、木、した事は翌日は休む人もあつた。四月、卯、旬、に、再び、オ、カ、ナ、ガ、ン、に、ム、グ、した。その、内、に、他、縣、人、も、入、り、込、ん、で、来、て、或、る、者、は、不、真、目、で、日、曜、日、な、ぞ、に、は、朝、か、り、晩、迄、酒、と、賭、博、で、大、騒、ぎ、を、し、て、居、る、全、く、ギ、ア、と、ゲ、生、活、は、嫌、な、つ、た。し、又、自、分、等、の、目、的、と、し、て、缺、道、化、事、及、ぞ、に、甘、ん、じ、て、は、居、り、れ、ぬ、約、十、哩、程、の、處、に、コ、ー、ル、ド、ス、キ、ト、リ、ム、ラ、ン、と、呼、ぶ、大、き、な、果、樹、園、が、あ、つ、て、山、山、菜、次、と、云、ふ、人、が、ボ、ス、と、し、て、居、る、と、聞、へ、た。か、ら、親、友、の、淺、沢、應、轉、君、と、或、る、サ、ン、デ、ー、に、朝、早、く、起、こ、て、道、々、見、物、と、し、た。が、り、目、的、の、方、へ、田、舎、迄、と、よ、つ、て、行、く、と、個、人、的、の、果、樹、園、が、続、々、と、し、て、居、る、見、れ、ば、昨、秋、牛、外、づ、し、で、落、ち、た、ア、ツ、プ、リ、ガ、そ、う、ま、く、雪、解、け、の、細、つ、中、に、い、つ、ぱ、い、あ、る、で、は、あ、い、が、句、体、な、い、吾、々、は、ギ、ア、と、ゲ、で、は、一、サ、イ、キ、一、キ、も、お、し、て、誤、ふ、て、喰、べ、て、居、る、の、だ、此、れ、を、拾、つ、て、行、ふ、で、は、及、い、が、ア、ー、レ、テ、居、る、の、フ、イ、ン、ス、に、古、サ、イ、キ、が、ひ、か、い、つ、居、る、然、し、人、の、細、に、黙、つ、入、つ、て、見、つ、か、つ、た。り、大、意、だ、か、り、僕、が、入、つ、て、控、つ、て、来、る、か、り、淺、沢、君、人、が、来、る、か、ど、う、か、フ、イ、ン、ス、の、外、は、ワ、ッ、キ、し、て、居、て、く、だ、さ、へ、と、云、ふ、て、秘、が、拾、り、上、行、つ、て、居、る、と、オ、ー、イ、人、が、

人が来たぞと呼ぶから忙しくおて見ると向うの方
 から馬に乗つた人が来るといふ。近か寄つて見ると
 日本人らしい。それでも間違つてイデオアでもあ
 つたらうか。ずか聲はかけられまいよ。と云ふて居る
 うちに傍に来て先方からおまんら何處へ行くのか
 と問われ左から実は私等は山さんと言ふ人のキ
 アンポに行きまいです。が此道を上つたらよいでし
 うか。オオ。おし。が山さん。よく来てくれただけあし
 がタウンへ行つて来るからキアンポへ行つて中食
 でもして居てください。と云ふて行かれ。最う一哩
 斗り行つた處がキアンポであつた。そこには落合と
 云ふ人のミセスがコウキをしてお五六人の人達が居
 ていろ。祝賀に話をしてくれ。左様で山さんが
 タウンから戻つて仕事の都合で後金の事を尋ねた
 り。今此處では日本人のボーイを最つと欲しい。と云
 ふので四月十五日から一ヶ月間御事で一弗四十
 仙。おすと云ふて募集して居る。現在は一弗五十仙
 だ。後金は鉄道も同じである。が欠乏。角私等は果樹園
 で御さまいのだから四月十五日から来る。それからお
 朝のし。ち。と約束をしてギアングに帰いてその空
 とボスに話した。處大妻立腹の体であつた。けれど私
 達は約束をして来たのだから行なふと断じて。慈
 じ。及かつた。そこで滝沢君は今度りばアメリカに行
 かれるから。え。う。し。う。と云ふので。私一人でエー
 ドストリム。う。と。4に来た。空園には苗木の養生所
 もあつて。先。津。氏に依つて。接木の事から果樹の植
 へ。附け。一切を。研究。れ。が。お。来た。翌。年。日。本。か。り。実。弟。や。義。

6
 えを呼いその内在加中の友人も集つて十数名のモ
 アンプロと存つて其の廊下合つた
 一九〇七年七月和字線加奈陀新聞に今回日本領事
 矢田長之助氏が才力たが地方視察に巡りぬると
 予告があつたが日程は確定して居り及かつた或る
 日の午後私が道路の高い木の上より一頭覗き覗く
 ニングをして居ると向ふの方から一頭覗き覗く
 トで紳士の方二人で来りれて私の木のトでピ
 タツリと止まつた私は何方かと思ふて居るうちに一
 人の方が英語で「アイリス」と呼びかけ
 た私は「アイリス」と答へた次には「キアシユースビー」
 と答へた「アイリス」は再々聲をかけられた私は又「アイリス」
 と答へた「アイリス」は何人かとも「アイリス」の一
 張りで日本語で僕は晩香坂の領事だと言われ今更
 は日本語で僕は晩香坂の領事だと言われ今更
 て本から降りてお仲間をしてお所には山澤次郎
 氏がボスで同胞十数名御へて居るキアシユースビーが
 吾々が所立ち寄り所を事かお来しうが「領事」
 僕は今日非常に忙しので夕刻六時に「アイリス」
 市迄行かぬばあらぬかり皆の人に會ふ機会を得る
 れぬいがでも一寸キアシユースビーを見て行ふではもう少
 し上の方を視てお仲間をとお仲間をとお仲間をとお仲間を
 山澤氏も呼んでモアンプロに呼んで當りも少しく形
 附けをたが其の時の事だから領事さんに腰を下ろ
 して頂く所が及ぬと云ふ所相違なつた「アイリス」天幕を張
 つた台があつたからそこで靴を脱ぎ「アイリス」や
 一を並べてお待して居つた聴て領事さんは昔会社

7. のブワッキーパーの案内で来られた事で用意して
居た左テーブルを囲んで当地在留同胞の沿革や日
白人の向梅子に所へて歓迎交々語り合ふて居る内
にコッウから茶を運ばれた俄かづくりのケイモの
中に臭々と黒いものがある社に最印のうちコッウ
半ん気が利へてスバイスでも入れてくれたナーと
思つて居たがよく見ると蟻ではありませんか驚へ
て領事さんにお叱びをすると領事さん「それは
結構く蟻を喰べると力が増くと云ふ事だからと松
智よく簡単に形附けておくれちうで表面ながら突
ひで済まして頂けた事にはコッウ忙しかつて破
穀の束に蟻が入つて居たのを知りずに粉に交ぜて
しまつたものらしい約二時間の後歓迎会もつた
かつ左が領事さんもお急ぎの旅ながら惜しくもお別
れ水た斯くして別は一れ。九年二月オカサガセ
ンターに移動して現在に至る

此へあつたを綴つて見るとながり然り所々年が流
れて居るが中々

九月十五日

オカサガセンタービル

編集委員 岡田 中

小林 傳兵衛

新井 芳樹

二件

オカサガセンターに移動以来の奇談は沢山ありそのが
字數制限もあり是う多忙の折なり略さす所多し

B. Shiozaki,
119 Macpherson Ave.,
Toronto 5, Ont.



19

Tells time when he worked in a store, his wife was the
teacher in Japanese school in New Westminster,
and while boy stealing something from the store and if his pursuance of the boy
and his talking admonishing the boy and if the consequences where the
mother of this boy sued took legal action saying that he took the boy
but it was proven ^{right} that the skin on the boy's back peeling
from sun burn.

National I.C.C.A. History Contest,
415 Spadina Ave.
Toronto 2B, Ont.

National I.C.C.A. 8
Japanese Canadian History Contest
Name: Bunsaku Shiozaki Age 76
Address: 119 Macpherson Ave.
City or Town: Toronto 5, Ont. P.M. Ont.

① NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

EXCISE NO.

7-2

C. of NJCCA.

B. Shiozaki,
119 Macpherson Ave.,
Toronto 5, Ont.

*about incident of cholera outbreak
while on coastal boat in Japan.*



National J.C.C.A. History Contest
415 Spadina Ave.,
Toronto Ont.

全民所增入信獎

無線電報

111

隨氏所居人信

卷一

111

大正五年八月十日府政に入
1916年

City or Town: Toronto 5, P.R.V. Cent.

我身の危険を忘れてコレラ病と闘つた

私は九〇六年六月廿八日五才の時加賀丸でヴィクトリアに上陸同月三十日晚香港着
七月二日よりシテソーニールに一日十時間一帯で働き約二ヶ月後シングルミルに交り
一帯七十五仙を得暫くして二帯となり茲で五年働きましてC.P.R. ツレンポーター
となり約五年中一九四四年才大戦勃発不況となり会社はポーターを廃止
日本人四十余名失業他に仕事口なく。一九一五年四月故郷の母を訪ね迎妻翌年
七月六日神戸出帆の布哇丸にて單身飯碗の途西谷はな（和歌山県人米国行）コレラ病
に罹り舟が清水寄港の際絶命の横濱着舟客廿八名を乗せたが死体の揚陸を許
されず七哩離れた長浜沖に停舟を命ぜらる。斯くする中に舟内食堂便所附近
に吐き下し発熱甚しく倒る者続出人怖れて食を摂らず雨中毛布外套と
かぶり甲板に夜も明かず騒ぎの舟は重患者を甲板後部の隔離室に運びしが
迎も収容し切れず此悲惨の光景を見て舟客中より多田橋本塩崎も代表者と
して舟長に面会を求め事務長代つて対応す吾等の要求は健康者とすく上陸
せしめよ。前途の希望を抱いて米加の地に赴かんとするも病に冒されて死しく
舟上に生命と捨つるを欲せず必要の費用は吾等用意あり支弁す若し舟客時を
遷延するに於ては自衛上吾等勝手に端艇を切却して上陸せんと述べれば
事務長曰く今無電を以て頻りに本社及陸上諸官庁と交渉中なれば暫く
待つて呉れ善処しますからと。待つ中に一人絶命を依り甲板へ返る騒ぎ
最早猶予すべきにあらざと舟長に直接面談を迫る舟長出で来る吾等諸を
励まして此危急存亡の秋即時吾等の要求も実行せられよと述べれば舟長答えて
曰く皆様にお気の毒です舟は絶えず陸上と折衝中ですが官方側では舟客を
揚陸して内地に蔓延せんか布哇丸搭載の全ての人を失ふよりも不幸ななりと
て慎重の態度をとり未だ結果を得られず当惑中なればどうぞ今暫く
待つてくれという。吾等代表者も追退てくに谷まり如何とも詮符やなし。
人々一睡も出来ず返事を待つ折しも舟長より使者来り代表者すく来て
下さいと行つて今と云ふは「明朝九時より舟客舟員共全部長浜に上陸す
依て各自毛布一枚及び日常品を携帯せよ他は舟が保管す」と告げられた。
時既に黎明。これと直様一同に依えければ人々恐る／＼舟内に下り上陸の

準備に取掛る。舟は引切なしに流笛を鳴らす響に人々戦々兢々心落付かず。吾我上陸迄に死者四人を出す。之れと患者を陸上に急送せんがため汽艇を呼ぶのである。遺骸は厚板長方形の箱に納め新しき日の丸の国旗を以て蔽ひ其上に線香ロソク花束を捧げ艦のウインチにて静かに汽艇に吊卸し磯辺に送り僧侶読経火葬す。一方病者は隔離所へ送つた。嗚呼人間の運命とは云え祖国を後に目的地に赴かんとする途上に於て空しく病に倒る真に同情に堪えず悲哉。我等は予定の如く午前九時より順次艇下に移り長浜海边上陸列を組んで係員に引率され検疫所に至る。一同入浴持参品を区分して熱気蒸品を以て敬重に消毒行はれ予防注射を受け一同検疫済んで再び列を組み毛布包を背負導かれて収容所に着す。行程一哩余の家は置なし板間定員の約二倍を容れるので廊下迄毛布を敷きすしづめ其上此処は小さき谷間にて蚊の多き事想像意外去りとて大勢で蚊帳を吊る事出来ずガラス戸の上に蚊帳を打つけたが隙間より這入る蚊に攻められ押合つて寝る窮屈と相俟つて安眠出来ず朝起きれば毛布蚊帳を片付家と便所と清潔にし毎日三回石灰酸を撒布し予防する之れが舟客が番組を定め交代で布食事の分配も行つた。石灰酸一日の消費量一石以上。収容所に入りて後も患者絶えず故に発見次第入院せしめ傍にありし者は検疫所に送り入浴、毛布、日用品を消毒予防注射を受く。毎日伝染病研究所内務省神奈川県庁より二木博士外二医来り三回健康診断あり其都度一同と呼集め雨天外屋外に整列検疫所長監視の下に人員点呼診断を受け異状ある者は直ちに入院亦予防注射屢々行はる。初の収容所の給食を摂りしが患者絶えざる為人々怖れて食せず。係員と交渉飲料水消毒ミルク及サンドイッチを毎日横濱よりスカウ積小蒸気で運んだ。人々食事をすれば室内を怖れて小山に避け夜はいやくなから家に似つて寝た。思えば不自由且心淋しき生活であつた。当初今事に關し田所橋本、塩崎が昼夜交代でやりましたが田所橋本も我身大事とて間もなく止めてしまひ止むを得ず私一人で人事を盡して天命を待つ「やれる所までやると決心して継続しました。舟客中米國行が多く有識者亦社会の経験者有る人ありしが所謂君子危きに近寄らば自己を守るに努められたりは聊か遺憾であつた。尾籠の語であつた。田所橋本等して水洗

(3)
便所でなく大勢が使用するので隔日に百姓が汲取に来りしがコレラ病の怖ろし
きと世に伝はるや村の人々申し合せ収容所に汲取に行くな若し反する者は村
より放逐すると警告した。それが為め取りに来らず吾等之れには当惑(驚
攻めにあい)當局の奔走により数日の後漸く復旧の亦横浜の宿屋も誰人顧み出
さず浴衣を見舞として舟に事付けて来たのがせめてもの吾等の慰めであつた。
私或日室内で様子をかき男子を見付直隷医者を呼び入院させたが二時間後に絶
命した之れは例外激烈のものであつたが発病後六、七時間で死亡するもの多し。
コレラ病の恐ろしきは之れに依つても知る事が出来る。コレラにはヨロップ。アシチツク
の二種ありてアシチツクが激烈なりときく。八月上旬病勢稍衰えたるを見れば私
所長に進言して吾等何時迄も茲に止まるを欲せず故に今後一週間一室より患者を出さ
ざれば其クルーフと健康者と認め解放せられたしと頼み承諾を得即ち才回七十名
八月十四日午後解放され且亦入院者を除く跡の人々も近日解放の見通しつきしかば私自
十七日出帆舟に乗らんと才回解放組に加はり横浜に出ました。思えば月余死生の境に
あつて今日命を得て横浜に来る一回の喜び譬ふるにもなし。オーフより指定旅館迄浴
衣着て下駄穿き姿に毛布を背にして列を組んで町を進むや外に夕涼中の人々
等を見るやコレラ病が来たとあわてて家に逃げ込みを閉するさま実に滑稽千
萬今尚當時を思ひ起し噴飯に堪えせん。米加の地にあつてコレラ、セキリ、バスト、
チヨチバス等の激烈なる伝染病を知らぬ人々には此麼話なんの感じも
ないでし。然し昼夜の別なく危険を忘れて偽いた私は後世に之れを伝える
のも敬て価値なきにあらざると存じ本文を記述した次第です。斯く皆様のお
世話出来ましたのも私日露戦役弾丸雨飛不眠不食亦凱旋前陣中にチヨ
チバス獨癪を極め死者戦死よりも多しと當時伝えられた此巻を往來した体
験により人間全て心の持ち方「精神」に何事か成らざらん。茲に恐怖も打たれ
只前進の途あるのみと断行かくてこそ神仏も護り給ふのである。私
横浜出發前布哇丸舟客一同よりとて手提げカバン一個贈与せられ難有
拝領記念として今尚大切に使用致して居ります。亦大阪商船会社
より一等舟客として晩香坂へ送りたしシカゴ丸には一等客室を預ければ次
舟迄待たれと云はれましたが比留さんと苦しみと偲にしたのに往
り私而已好過を言ふると快しとせず布哇丸以来起居を偲にした向井

(4)
兵輔氏及十六才の後藤元一君(親の時寄せで初渡航)と八月十七日出帆シカガに
便乗九月三日晩香港着当時カドバ街にありし紀の国屋に至れば
松葉、松山等の々ありて布哇丸の語きかせと依て前記の如く詳しく
物語りしました。一方ブリタニアビイチの後藤親父に元一君の安着を
報じたれば直ちに晩息子を引渡しました。大へん喜んでくれよした。
因に布哇丸は乗客二百余名(等に加祥田中西氏あり)長浜上陸と同時に
隔離所へ送られしものあり其数不明。収容所に入りし者百六十九名
内男百十七名女五十二名。其後入院せし男三十一名女九名。
八月十三日迄の死亡者十四名。人名表私保存す必要なれば提出す。
参考の為電報字添附す

右は今より四十三年の昔の出来事当時の人々今何所に在す。只新
聞紙上で時折国本新吾氏アルバタ州。長滝谷彦三郎氏ハルトン
の名を見るのみ。

一九五八年十月一日

トロント市マクファソン街二一九

塩崎文七 七十六才

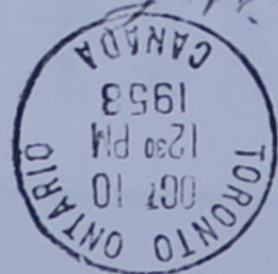
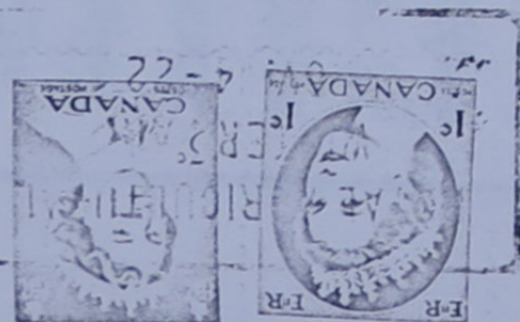
B. Shioyakei

119 Macpherson Ave.,

Toronto 5, Ont.

National J.C.C.A.'s
Japanese Canadian History Contest
Name: Bumshichi Shiozaki Age 76
Address 119 Macpherson Ave.
City or Town: Toronto 5, Prov. Ont.

B. Shiozaki
119 Macpherson Ave.
Toronto 5, Ont.
Feel of experience in knowledge and this paper, the more would be
about the Japanese history and this paper, the more would be
National J.C.C.A. History Contest,
415 Spadina Ave.,
Toronto 2B, Ont.



第一、第二大戦に物質上を受けた損害

私は本題に入る前、渡加以来何をしたかを少しく述べたいと思ふ。一九〇六年六月廿八日、義港に廿五才で上陸。三日晚市看親戚の者に迎へられ七月二日からシティーのヤードの板運びを十時間一帯で同舟者藤井、関根と車でやりよした所が、一週間後にデツキが破れ車が転覆して藤井の片脚が板の下に押えられ骨折入院二ヶ月余。当時コンペンセイションの制度がなく丸の毒であつた。私は二ヶ月後シシグルに乗り七五仙を得暫くして二帯となり上つた。シシグルは冬少しの休みがあるから隣のランバに働きよしたが一五〇仙乃至六〇仙であつた。一九〇八年雪降の日、会社がインデアンリバーにあるブンブが切れて之れを拾ひ集める為ブンブマンの野村と私は小蒸流で現場へ急派された同所は見ると怖ろしく急流加ふるに吹雪で、沈没めば先づ助かりぬ命がけだ。晚香坡やホースクリキの池の如き所に伏くブンブマンには怖れがついて活動が出来ない。道は此処で慣れた白人は小さいログの上でも恰もカモメの如く飛回る様感嘆した。我等漸く拾ひ集めしものや筏に組み小蒸流をしてホースクリーへ実行せしめた跡のログを筏に組んで待てど小蒸流来らず山中の安全に夜を明かした寒さに身さふるわしつてもマッチが濡つて火が炊けず食ふにものなく人々皆山の中実。此時の苦しさを忘れられせん翌朝小蒸流漸く降り来り舟内に入り先づ暖さとり食事を待て生き返つた時の嬉しさ、譬ふるものなし。第二回の筏を小蒸流汽が曳いて我等も共にホースクリキのところに降りました。同年秋白人暴動が、元日本人街を襲ひ大騒動ありコンソット橋傍の宿舎に在る日本人各自に防衛具を用意したが未だなかつた。私は此の仇きと五年を止めてC.P.R.ツレンポーターとなり晚市モントリアル間を往復、晩市に飯れば休養も利用してがーデン仇をした。或日人から薪切を頼まれて行つたポイントグレー電車を下りて四十分間も歩いて漸く家は探當てた。當時は未開家少なく尋ねるに困つた。其新は四吠を三つ切りにするので半コードだ。十時過ぎから茹めた所がBUCK SAWが切れない気があせるが仕方ない時間がたつ腹が減る漸く切終つたが八時疲れて電車道迄歩く力なく水と飲んで其所に倒れて居た月夜であつたが主人夫婦が飯宅私を見るや疲れたか今、食事を捧げるから少し待てと早速しから沢山捧えて与えられ実に嬉しかつた。厚く礼を述べ元を回復飯途についた翌日シルクハンカチーフ二枚封入貴方の中親切長く忘れせん之れは礼の印ですと

(2)

うぞ受取つて下さいと認め謝状を出しました。こんな苦しい時助けられた事は一生忘れません。斯くして汗水流して稼いだ金の多くを土地に投じました。当時土地熱盛にして買えば儲かるものと思つた所が、大戦勃発するや人氣沈み仕事口なく働く人も賃金も下がるコンソート橋北端何らかの爆破通行不可能となり世人を驚かした。それ以来各要所に番兵を配置せられ日増に戦争気分が人々の頭に濃厚となつて来た折しもC.P.R.も経費節約のためレンボーターも停止日本人四十余名失業私も他に仕事なく自分の土地を崩壊した。然し不況は何時回復するか見込立たず此際飯飯郷母を慰め妻を娶りんとて。五年四月、父が故出奔神戶着直ちに家に飯れば母健在久し振りの対面に母は涙を流しお前には此書でもう会えないと諦めていたがよう飯つてくれたと大へん喜んだ。父の死は其時が最後の別れであつた。○在郷一年三月妻を迎え妊娠の爲單身十九百十六年七月六日神戸出帆の布哇丸にて飯加の途についた所が女乗客にコレラ病発生清水客港の際死亡横濱着廿八名の客を載せたが死体の掃陸と計らず横濱と距る七哩の長浜接所洋に停泊と命せらる折柄患者続々怖れて食を止め甲板に逃げ雨中毛布外套をかぶり戦々兢々茲に乗客中より多田橋本塩崎の代客者を出して舟長に健康者も直ちに上陸せしめよと要求す。舟長曰く今無電を以て本社及陸上当局と交渉中故暫く待つてくれと待つ中に死者を出す舟上沸き返る大騒ぎ人々一睡も出来ず黎明近く舟長より明朝九時より乗客舟員共長浜に上陸す依て各自毛布一枚日常品も携帯せよ他は舟が保管すとの之れを一同に伝えたれば皆恐るゝ舟内に下り上陸の準備に取掛る。是刻順次艇下に移り海辺に上陸接所に至り入浴予防注射攜帶品の消毒済んで収容所に着す。○上陸迄四人の死者を出し之れを磯辺に送り火葬す。患者は隔離所へ。収容所に入りし者百廿九名内男百廿七女五十二。其後入院男三十一女九。死七。八月十四日迄十四。○吾等収容所に入りて後患者絶えず始め給食を食べしが皆怖れて食せず係員を交渉横濱よりサンドイツ消毒とルく飲料水とを毎日スカウに積小運搬で供給した。之れのみで一月余を収容所に過した思えば恐怖と不自由且に苦しい生活であつた。八月十四日第二回全船放。入院者を除く人々近日解

○吾等の後、八月十七日明治出帆のシカゴ丸にて九月三日晚香港着。ブリタニアに在る親父に元一居の安着を報じ親人すぐ出晚息子を引渡し

(3)

共に喜んで別れしました。

叔私日本より飯つて見れば不況は層深刻を極め聞けば食に困つてギヤギヤと見て廻るものもあると此様な時節で土地の買手等は思ひもよらぬ事夫故納税に困つて放棄するもの追々と現はれ私も同じ境遇にあり「捨子の詩」ではないが捨てるが是か捨てざるが涙か人間の精神欲の爲めに迷ふとでも申すべきか一刀両断の処置に窮したのであります。折柄フリタニアビーチ後藤氏より未信任事あり来れと早速同地に赴き氏の尽力により仕事を得る意を謝し即夜仕事を始め八時間一五〇仙で爾来八月夜半中(山でコンクリート用砂取中に石が軋落脚部負傷治療の爲出陣中友人よりコールのスカウ掃仕事あるとき)昼の働きで夜は安眠出来るのでフリタニアビーチを断り晩市に乗りました茲で約三年働き会社がシンで振替る事になり失業夫れより友人と北晩の山に働き一九二一年新西院に移りました。回顧すればフリタニアビーチの八月月の夜半は渡加以来最もエライ(困難な)生活であつた何と扱つても重いもの斗り宿舎狭隘二階ベッドおまけに昼夜三交代で働く人の出入で安眠が出来ない水が悪いフライパンを水中にをけば一ヶ月もたかぬ中になくなる。鮭は一尾も小川によりならず風呂は流し場が狭いので大せいで洗うので夜更けるもの朝入浴すれば底が砂でじやうく湯がロータイ食事が悪いのは当時有名なものとして高い之れでも沈黙して仿かねばなりなかつたのは土地納税の爲めであつた御懐は笑あれ。斯くして辛うじて一九二二年迄継続しましたが前途暗澹殆も焼石に水一日も早く捨てるが得策なるを遅時なかり気がつく思切りました。此苦い体験を得て夫れ以来投機的投資を止める。スローバットシウワウの進路をとりセナオの今日に至りました。ゆゑを考へた私の捨てた土地を

シーモアクリキオニチロー橋通

半英加 一九〇九年七月 買入

同 インサイド

一ロツト 一九一〇年九月

バンダリロード

一ロツト 一九二一年二月

ポイントグレー十六街

一ロツト 一九二一年二月

同 十八街

一ロツト 一九二一年八月

ウイクトリアロード

一ロツト 一九二一年九月

以上 併し農地BC電鉄インボード駅傍十英加半値で甥三木政男百姓開始得賣渡す

右の如く農地だけが全損を蒙られました。(半額損)
終り

千九百五十八年十月三日

トロント市マクラン街二九

塩崎 文七 七十六才

B. Shiozaki,
119 Macpherson Ave.,
Toronto 5, Ont.

(5)

私は一九四三年
一九四三年九月
売渡し一千冊
外も幸ラッセル
した。才一回
手数料七十五
カストデアン
同氏より手数
り又送らぬ様
カストデアンへ送
〇ラッセルの返
と書いてある実
四月迄に私は
君からの送金
出状又カスト
次第送るとの
十三頁にタイ
トメント三通
一例とあげれば
し間違つてある
いて手紙を出し
謂盗人に送金
つたのは私の不
びり亦自己の生
がごとく本
のであるか。私
感した。〇
株も一冊持つ
に済まし多年同社に勤務する英人技師に留守を頼んで移動した。然るに終戦

National J.C.C.A.'s
Japanese Canadian History Contest
Name: Bunsichi Shiozaki, Age 76
Address: 119 Macpherson Ave.
City or Town: Toronto 5, Ont.

グに二千二百冊で
ッセル并護士に払
七十五仙と約束を
ッセルより要取
勤した。初の中
ッセルへ請求した
れから送金あり
〇それでラッセル及
り入金次第送ると
か何処へ移るとも取
〇云うのか一九四三年
添付し且つ私家は
るすぐ送つてくれ
よりは入金あり
送り来り見れば
が請求で末尾にステ
方と記入してある
題目亦計算も少
実情を委しく書
手にて訴訟すれば所
期かる井護士にか
出られぬとみく
る今度仮に彼がう
日迄沈黙を守る
スルべきと云ふこと
イタ水の会社の
上の手続を完全
に済まし多年同社に勤務する英人技師に留守を頼んで移動した。然るに終戦

(5)

私は一九四二年五月第二天戦勃発につき蒙つた損害を記述します

一九四二年五月晩市メン街一〇二バーク旅館を支那人トイコングに二千一百席で、
売渡し一千席受取残金二千三百席と利子を毎月百席と利子を、
外も幸は之れをグリニウード塩崎に送る事此手数料一回七十五仙と約束を
した。才一回支那より元利百の六席同率六月日入金あり私
手数料七十五仙

に於て八月一日私一家グリニウードへ移動した。初の中
カストデアンを経て送つて来ましたが其後送金なく依て
同氏より手数料一席にしてくれと申来り承諾の旨返答した。それから入金あり
り入送る様になつたから支那人に問合せたり全部お済との返事のそれで
カストデアンへ送金の頼み状を出した。カストデアンへ送り返信に
から入金次第送ると

の返事に曰くお前に七六百席貸方になつてあるから譬えお前が何処へ移るとも取る
と書いてある。更に意外私折返し彼に出状した。君は何を突飛な事を云うのか。一九四二年
四月迄に私は君に三百三席九十一仙貸方になつてあると計算書を添付し且つ私家は
君からの送金も当てるに自費で生活して居るのだ。送金がないと困るすぐ送つてくれと
出状又カストデアンへも同様計算書を封入出状した。カストデアンよりは入金あり
次第送るとの返事。

より相当日を経てステートメントを送り来り見れば
十三頁にタイプした一九四二年三月より翌年八月迄に四百八十席の手数料の請求で末尾にステ
ートメント三通作製料三席を加え總計六百四十九席七十五仙塩崎に貸方と記入してある
一例をあげれば既に勘定の済みであるもので書き出して全く出鱈目亦計算も少
し間違つてある。私は之れにつき
と始め紹介して呉れた友人に事情を委しく書
いて手紙を出しました。たり訴えよと返状です。然し此悪意の弁護士と相手に訴えれば所
謂盗人に違ひ、亦は及物と持つた。在るに似て誠三つうしい斯かる弁護士にか
つたのは私の不運と諦めました。彼は私一家と該国人の移動地より出られたい。こみく
びり亦自己の借方を踏御さんが為め恐喝的対向策に出でしものなり。今仮に彼がいう
がごとく本当に請求する理由があり好利と有するならば何故今日迄沈黙を守るのであるか。
私は之れにより弁護士を依頼する場合に注意を要する事と誠々と
感じました。今一つ最後に述べんとするは、私晩市のバンブラザーソーダ水の会社の
様も千席持つて居りました。社長は百瀬清春氏で移動には法律上の手続も完全
に済まし多年同社に勤続する英人技師に留守を頼んで移動した。然るに終戦

(6)

後出晚して見れば右英人技師 が会社の財産の売れるものは悉く勝手に売松
ひ何れかえ逃亡して居る中に憎むべき行為之れにつき社長たる百瀬氏は私に五百
席で諄めてくれと云はれ私も親友の間柄であり且つ同氏の大損失を思ふて承諾した
戦争の爲自然に生じた損害は止むを得ざれど戦時敵国人(私は一九一三年飯加せり)と
見くびつて悪辣手段を以て他人の財を奪はんとする不正行為は天の許さぬ所と信ず
るが故に金額の多寡と論ずるに非ず其行為を憎むが故に茲に記した次第であります
以上

一千九百五十八年十月一日

トロント市マクファレン街二九

塩崎文七

七十六才

B. Shioyaki

119 Macpherson Ave.,

Toronto 5, Ont.

前記

弁護士のアドレス左に

Metropolitan Bldg.

Spadina St. W.

Nancarrow, B. C.

参考の爲計算書添附

(7)

摘要	貸	借	差引
メニ株式1012ルース TOY QUONONへ 売却代	2,00000		
売却の時現金収入		1,000.00	
現金支払消込の利息	3900		
1942年6月1日カ一回分元利率 より塩崎文七受取		10600	
1942年12月7日カストデニよりケリダートへ 送金		10000	
1943年2月15日 同 送金		10000	
1943年3月3日 同 送金		20000	
1943年3月13日 同		20000	
1943年4月21日 同 送金		9950	
1943年7月24日 同 送金		10159	
ラッセルへ集金料(三回分)五回分 一回七十五仙の送金		375	
同 (セハルは十三)六回分三回より送金 一回一昨の割に取て三回分		300	
	223900	191384	
	191384		
Balance -----	32516		
以上1943年九月一日私に に貸			
	塩崎文七 76才		
	B. Shiozaki,		
	119 Macpherson Ave.,		
	Toronto 5, Ont.		

(1)

新西院に於ける出来事

私は九二年六月友人今西冬三郎氏が新西院語学校教師を辞任せられたので私の家内に後をやれと勧められ躊躇して居つたら私の仕事で西口商店にあるから夫婦で来てくれと云はれ家内は永年日本をやつたので趣味があり私も東京の伯父の店に十年居りましたので商売の道はまんざら素人でもないそれで行く事に極めましたさて行つて見ると日本と違い組が多いおまけに夜学に来る者もあつて一人では中々忙しい生徒が年々殖えるそれでも学芸会には毎年領事も迎えて御覧に入れたが当時の生徒に福永のぶるゑ宮川すゑゑ藤木久枝榎本修一(かバナメス受領者)等の優秀な生徒揃い記憶力強かつたのには感心した中にも福永のぶるゑの乃木大将の一代記を滔々と暗誦又其他の者の討論も上出来聴衆をして感嘆せしめた当時の人々今何処に在す月日は流れて早や三十七年の昔となりぬ同地には早や日本語学なし感慨無量。

当時B.C.州各地に日本人団体が設立新西院に於ても市内及び其附近の同胞相謀り新西院日本人会を組織し西口三木藏氏会長に当選爾来年と共に会員増加して三百廿五名を有するに至る。其後晩香坡に於て日本会を中心として毎年一回各団体代表者六十余名相集り連絡協議会を開催在加同胞に属する諸般の事項を協議し甲論乙駁期三日間にも及ぶ事ありさながら擬国会の觀ありき。新西院日本人会より玉置直氏と私は代表者として出席したが議場に於ける鈴木悦氏が重鎮且つ雄弁には感心した。或日労組員がオーションホール製紙会社より解雇せられたる事に付同地出席者たる兵頭藤崎両氏に向つて論難する事約二時間隣席にありし私聞くに不堪弁言を求め吾等尚他に議事を残せり希くは会議本日を以て終りたし晩市の人はいざ知らず地方代表者は三日間にも亘りて

(2)

は甚だ迷惑なりと述べたり。私今尚忘る事出来ざるは彼一派が連絡協議会々場より加奈陀新聞記者を放逐せし一事なり温厚なる社長鈴木重三氏当時の心中如何に。世の中常態を保ち難し晩市に西原康氏の如き豪者現はれスター映画館に於て鈴木悦氏一派の反対演説会あり繞りてオレンジホールに大演説会を開催ステファストンより応援として大津源次氏吉田愼也来る又フエアビウ仏教会にても開かれステファストン及新西院よりも出席攻撃斯くして鈴木悦氏一派崩れて野に下り後継花月内閣となるや流石に大雄弁を以て永らく在加同胞を牛耳つた同氏も其後連絡協議会に於ける以前の面影なく気の毒に感じた然し鈴木悦氏が在加同胞を啓発したる功績の大なるは人々の知る所なり惜むべきは在世長からざりしを。

戦前同胞が晩市を中心として生活した時代には売派争いもあつた然し之れも世渡りの一つの試練だ。戦後各地に散在して同胞間売派争なく頗る平穩なる生活振りを見出し同慶に堪えない然し昔連絡協議会ありし時代を回顧し何となく活気なく感ずるものであります。希望は同胞間の論戦よりも日系人中より鈴木悦氏の如き大雄弁家現はれオタワの松舞台に登場する日の早かれと祈る。

新西院在住中の著しき出来事は西仙之助氏養女(九才)学校よりの飯りコンビニア街重本商店前にて晩市よりの電車に触れ両脚切断病院に急送絶命。塚本吉太郎氏勤勉実直の人であつたが妻の不貞が原因発狂して妻を女靴下を以て絞殺塚本氏は警察に拘留死人は翌日の検死裁判迄自家に留置する事となり塚本氏の義兄と私は近隣の関係で夜番をしましたが余り気持のよいものでない。

叔私の主題は渡加以来始めて裁判に訴えられた一事です。私は大抵西口店の帳場に居るのですが婦人が店の客に接して居る時しばしば白人の十二才のボーイがフルツ其他を取つて逃げると

(3)

咄くのてず或日婦人の食事時私店番として居ると例の小僧が
例の如く行動を開始したそしてまゐとせしめて遁走する。私は
小僧逃してたまるものかと跡を目散に追ひかけた小僧あゝの広いコ
ムビア街を河岸に進路を転じた私も生懸命走つてきううして捉ま
店につれ来らんとすれど怖れて道に座り込み動かず日取早是迄
と今後を戒め放してやつた。程なく母親店に来り声高くわしの
子の背の皮を削いだのは誰か名前をきかせ損害を訴えろと塩崎
の名を覚えて飯つた間もなく警察より明日の裁判に出廷せよとの
通告だ次男朝次郎氏早速サルバン弁護士と打合せをして翌日の
裁判に備えた。小僧の背の皮は毎日泳ぐから日焼けで薄皮むけた
のは誰が見ても分ると弁護士に言つて置いた。当日裁判に弁護士
サルバン通弁朝次郎被告塩崎証人店より三人。原告母子。是刻
開廷するや弁護士と判事との間に質問応答あり原告被告には
一言も発する事なく約一時間にして終り判事より母親に対し
今後に対する忠告があつて閉廷した。母親は損害賠償も
取れず失望の態であつた。未加以来始めて裁判に訴えられ無罪に
終了しました。以上

千九百五十八年十月六日

トント市マクファソン街二九

塩崎文七 七十六才

B. Shiozaki,

119 Macpherson Ave.,
Toronto 5, Ont.

B. Shiozaki
119 Macpherson Ave.,
Toronto 5, Ont.

story of his operation of a rooming house on
Dorset St. and a roomer fighting in his
home and of arrival of police.



National J.C.C.A. History Contest

415 Spadina Ave.,

Toronto 2 B, Ont.

National J.C.C.A.'s
Japanese Canadian History Contest
Name: Bunsichi Shiozaki Age 76
Address: 119 Macpherson Ave.
City or Town: Toronto 5, P.R.V. Ont.

晩市にてルームス経営中の二大出来事

私は九三三年八月より晚香坡市東ヘステングス街三四オレンピアホテルを創業して一九四二年八月迄経営夫れよりグリーンウッドへ移動しました。旅館経営中色々出来事がありました。其の中の最も大なるものと二つ述べます。但し前をきとして。かしこすといわれまうので困ります。ルームレント斗りでない客がベッドマトレス、フラインドの外悉く持ち去つてある亦時には昼間客の不在を考えてルームへ侵入衣類其他を盗んで便所に入り着替え時を見てオーフレ前も通過するものならん便所に古物の捨てあるを見る或人の話ではスーツをダブルに着てオバコートも引かけて出ると。実に巧妙な手段には防ぎようなし私かつて見付た事なし。南京虫は退治得るも盗人は絶滅する事不可能(石川や漁の真砂はつきるともせに盗人のたねはつきせじ)。

私は之れより本問題に入ります。私自身が暴漢に襲はれ九死に一生を得たのであります。カナダ政府が戦争の準備として国民の登録をしたのが一九四二年三月で其時私は訪日中で家内から早く飯つて登録せよ。舟便がなくなるからと前後三回も打電して来た。実は私娘を片付けに行つたのですが思うようにゆかずもう捨て飯ろうとする真際になつて縁談整ひ大急ぎで参式すぐ横浜へかけつけ舟に間に合つて六月九日晩市着親類の半田が私の飯りを待つと云うのです。ぐ病院へ急いで行つて暫く日本の話をした。がもう疲れたから後はあすきかしてくれと。其夜九時頃絶命した。其翌日急いで登録に行き相済んで日本へ安着を報せんと手紙を認め投函せんと深更一時過ぎ三軒先のゴア街とヘステングス街の郵便に投入しての飯りを突然四人の青年に取囲まれ道れる隙もなく一度に顔といわす所みまはさず殴る蹴る忽ち倒され刺さる。或者は首筋に小便をしつかけると臍を刺しに託隠して居ります。まあ何たる悪逆無道の仕業なるか。多勢に無勢如何ともなす事出来ざりしは返すくも残念であつた。暫くして互にかたり立上がらんとすれど頭ぐらうつき足もつれて立てず無言の中に神を念ずる事少時隣家のヘンスにたより漸く家に辿りつき着物と着替へツドに入りしが全身痛み眠れず翌朝医者に行かんとすれば宿泊中の親切なる白人が打撲傷

(2)

には生肉を当て臍帯せよそれが最善の治療法なりと教えられ早速其手当をして約四週間それを続けたれば傷殆んど癒えたり。其時幸崎山伊太郎氏ゴア街日会前にて悪漢に襲はれ重傷人事不省に陥入。支那人も街上で殴られ間もなく絶命。と当時紙上にあり。文明の世とは乍申戦時は勿論其前後が兎角人心悪化敵愾心強く不祥事頻発した。以上及次の出来事も移動の際渡加以来の日記も焼捨てましたので日時も考え出すに付大苦心して漸く登録カードある事に気がつき之れにより記憶を呼び起しましたので余分の事を書きよしたが許されし

次は雪中白人と格闘相手を負かした事であります。日付は前述の如く明かに記入し得ざるも第二大戦勃発の直前直後であつたと思う。ルームスは毎晩十二時が過ぎると灯を消して客の安眠につとめるのであります。然るに夜一時過ぎ白人の酒気を帯びたものが余りバルを乱打してルームをくれと云う。気の毒だが今夜満員だと告げた彼はない筈はないと自分で見つけると声高ぐいつローカを奥へ進み行く依て警察へ電話を以て巡査の急派を頼みました。其返答に今忙しくて送れないからお前の方で処置せよとそこで彼を奥より引戻し静かに出て行つてくれと云つたが彼きこ入れず反抗して他の客の睡眠の邪魔をするので止むを得ず二階段より穴を落した彼はあつさかさまに入口迄転落した間もなく階段中仕切のガラス扉に投石の音をきく。私寝巻のきく表入口に駆下りた彼は尚石を手にして居る。茲に雪中で取組合私は寝巻をすたすたに引裂かれ夜寒をも忘れて格闘する中隣ハスのコフレ(一メ二三位のもの)を見付之れを以て頭部を強打せしかば彼力つきて雪の上に倒れ最早抵抗力なきを見て私は家に引揚げた。投石はガラス扉に痕跡深くガラスと縁の接合に幸ひガラスの破壊を免れた。先づ寝巻を着替ベッドに入る。暫くして戸外自動車及モーターサイクルの往復烈しくウエスルの噪音亦頻なり之れは本事になつたぞと思ふと眠る事も出来ず斯くする中ローカも二階三階に歩む足音を聴く。変だなあと思ふと耳をすましてみると間もなくオーシのバルをならす者あり起きて窓を開けば探偵と巡査なり曰く今夜此所で喧嘩せしものなきかと。あり私です。そこで二人はオーシに這入事の起りを詳細に

